

## 2023年度 上期 東北・北海道ブロック会議報告

- (1) 8/17～8/18、宮城県大崎市のアインパルラ浦島にて、16 産地 44 名、パルシステムグループ 27 名、総勢 71 名の参加により、4 年ぶりの実開催となりました。JA 新みやぎみどりのパルシステム米栽培研究会、株式会社花兄園ファームの協力のもと「ローカル SDGs でもっといい明日へ超えてく！～耕畜連携による国内自給力向上に向けて～」をテーマに進められました。
- (2) 1 日目は、村上副ブロック長の進行により、パルシステム生産者・消費者協議会の高橋東北・北海道ブロック長の挨拶により開会され、新みやぎ農業協同組合大内代表理事組合長、株式会社花兄園ファーム瀬戸代表取締役から受け入れ産地挨拶をいただきました。
- (3) 続いて、生消協、パルシステムグループによる方針および実績説明後、産地報告では、JA 新みやぎみどりのパルシステム米栽培研究会の木村事務局より産地紹介およびパルシステム米と耕畜連携、その効果について、株式会社花兄園ファーム大須賀取締役より農場、GP センターの概要について、パルシステムたまごのこだわりについて、耕畜連携の取り組みについて、震災の記憶を風化しないために震災前から現在に至るまでの様子等を報告されました。
- (4) 次に、東北・北海道ブロック耕畜連携産地より事例紹介として、ポークランドグループ豊下グループ代表よりこめ豚による地域循環型農業について、報告の中には「産直の原点「体・口・心」自分の体で会いに行き、自分の口で言葉を伝え、真っ直ぐな心で相手に向き合うことが大切である」と秋田県内で放送されている動画を交えて話され、ノーザンび～ふ産直協議会宮北会長より自給飼料による国産 100%飼料の取り組みおよび、2021 年から取り組みとして JA 道央子実コーン組合との連携について話され、有限会社大牧農場五十川取締役より子実コーン栽培と取り組み趣旨について報告がされました。
- (5) 全ての報告後、グループワークの場では開催テーマを踏まえた意見交換がされ、報告の中には「各産地の課題を組合員に知ってもらうためには交流を今以上に言いファンを増やす必要がある」「当たり前が当たり前ではなくなっている」「農協との地域連携が今後必要である」「若手の育成に力を入れていきたい」「それぞれの命を生かしながらも生産者、組合員のつながりをより大切に、地域の農業を進めていきたい」などの報告がされました。
- (6) 消費者幹事よりひとこととして、渡部副代表幹事より「産地の現状、社会情勢を理解するとともに交流を通して耕畜連携を組合員に知ってもらい、生産者と一緒に参加できる取り組む体制を進めていけたら」と話され、パルシステム福島による 2024 年福島県開催の受入れ報告がされました。最後に、高橋東北・北海道ブロック長より「冒頭に話した種まきがしたいという思いが届き、活発的な意見交換やグループ発表ができ、とてもよかった」とまとめがされ閉会となりました。
- (7) 翌日は JA 新みやぎ管内の子実コーンの圃場とともに株式会社花兄園ファームを 2 つグループに分かれ視察を行い、視察後は倉林関東・中部副ブロック長および柳井消費者幹事、高橋東北・北海道ブロック長よりそれぞれ 2 日間のまとめが報告され、解散となりました。

